

E V E N T R E P O R T

学生報告 総研大物理科学研究科セミナー

物理科学研究科構造分子科学専攻 5年一貫制博士課程4年 堀川 武則

2011年2月26日から2日間にわたり総研大物理科学研究科セミナー（大学院教育改革推進プログラム「研究力と適性を磨くコース別教育プログラム」の一環）に参加しました。初日は、実行委員ということもあり、専攻紹介を行いました。私は、構造分子科学専攻と機能分子科学専攻の理論分野の紹介を担当しました。先生方の前で分野の紹介をしたので、とても緊張しましたが、良い経験になりました。また、天文学や核融合など他専攻の専攻紹介を聞くことができ、とても自分の視野が広がりました。専攻紹介の後、グループごとに具体的な研究を含めて自己紹介を行いました。他分野の最先

端の研究を聞くことができ、興味を持つことができました。二日目最終日は、メインのキャリアパス（博士課程を卒業されて就職された方からの話し）でした。文系就職、理系就職、教職のお三方をお招きして講演をしてもらいました。就職した後の現場の状況などが具体的に聞けて、参加した意義を感じました。

このようなセミナーは参加するのが億劫になりがちですが、実際参加してみると思いのほか勉強になったり、得るものがあると感じました。今後も他分野交流のイベントがさらに増えればよいと思いました。

開催プログラムの概略

2月26日

企画1：研究内容の相互理解

2月27日

企画2：院生生活の改善方法

招待講演 林亮子(金沢工業大学)

企画3：博士号取得後のキャリアパス

招待講演 瀬々将史

(秋田県立横手清陵学院高等学校)

神保成昭(セイコーエプソン)

宮内洋宜(日本総研)

(敬称略)

Takenori Horikawa

京都大学工学部工業化学科卒業、
京都大学理学研究科化学専攻修士課程修了、平成22年に総合研究大学院大学物理科学研究科博士後期課程入学。現在、自然科学研究機構岡崎共通研究施設計算科学研究センター江原研にてSAC-CI法を使った高精度電子励起状態計算を研究中。



学生報告 平成23年度前期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程3年 櫻井 扶美恵

4月7日～8日の2日間にわたり、入学式および学生セミナーが総研大葉山キャンパスにて開催されました。本年度前期学生セミナーのテーマは“DNA”(=“Discover”“Network”“Announce”)であり、生命の設計図ならぬ研究者の設計図を意味したものでした。そのテーマの意図に沿って本セミナーは“Discover”“Network”“Announce”の3つのセッションに分かれていました。最初に行われた“Discover”のセッションは、学生が専攻に関係なくランダムに席に着き、学生同士で研究に関する事を話し合い、面白い人を発見していくというものでした。自分の研究分野とは大きく異なる学生がほとん

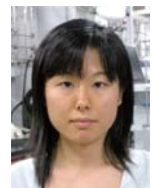
どで、最初は心細く不安もありましたが、多くの他分野の学生との会話も弾み、楽しく本セッションに参加することができました。次に行われた“Network”のセッションでは、自分と周りの人々とのつながりを実際に紙面上に示すことによって、自分の夢を実現するために必要な事は何かを改めて考えることができ、私にとって最も印象に残るものとなりました。3つめの“Announce”では、全く分野の異なる学生に対して自分の研究内容やその意義を伝えることに挑戦しましたが、相手に理解してもらえるよう伝えることの難しさを実感しました。

今回の学生セミナーを通して、私は

総研大の他専攻の学生と幅広いつながりを持つことができたと同時に、将来研究者として活躍するために何が必要なのかという疑問に対して何らかのヒントが得られたような気がします。これから3年間の分子研での生活において、「自分は何を目的として研究を続けていきたいのか」を日々意識しながら、今後の研究生活を過ごしていきたいと思っております。

Fumie Sakurai

名古屋市立大学大学院薬学研究所博士前期課程を修了後、平成23年4月に総合研究大学院大学物理科学研究科機能分子科学専攻に博士課程3年次編入学。生命・錯体分子科学研究領域魚住グループにて、自己組織化ナノ構造体を利用した水中での反応駆動システムの開発に取り組んでいる。



教員報告 分子研シンポジウム2011

2011年度担当教員 理論・計算分子科学研究領域 准教授 米満賢治

分子研シンポジウムが平成23年5月27日(金)午後から28日(土)午前にかけて岡崎コンファレンスセンター中会議室で開催されました。このシンポジウムは土曜日のオープンキャンパスに連動する企画として、平成19年から始まり今年が5回目になります。これまでと同様に、分子研に縁のある先生方に講演をお願いしました。修士課程の学生を主な対象として、それぞれの分野を紹介する話、最新の研究の様子、将来展望などをお話いただきました。参加登録者は所外43名で、所内参加者や当日に所外から来た人たちを含めると70名以上の聴衆が集まりました。所外の参加登録者の内訳は、学部生5名、修士課程18名、博士課程5名、大学の職員5名、企業または財団の職員10名です。本シンポジウムのプログラムは以下の通りです。

細越裕子 (大阪府立大学)

「分子と磁石：

分子でつくる新しい磁気状態」

中林孝和 (北海道大学)

「蛍光寿命を用いた細胞のその場観察」

高橋 聡 (東北大学)

「タンパク質のフォールディング研究：

高分子が構造を記憶するための条件は何か？」

佐藤啓文 (京都大学)

「分子レベルで見る化学過程の理論」

田原太平 (理化学研究所)

「超短パルスで分子を観る」

すべての講演時間は質疑応答も含めて60分としました。講師の方々のそれぞれが研究に至った背景や動機をわかりやすく説明されました。講演後の質問のほかにも、休憩時間などを使って熱心に講師から話を聞きだしている様子が見受けられました。若い参加者

のよい刺激になるように、懇親会では所内からも多数の出席をお願いしました。そこでは若い参加者と所内の研究者との和やかな会話や活発な議論が盛んに行われました。講師の方々の全員が、ご本人と分子研の交わりや思い出を紹介してくださいました。また若いときから研究の場所を変えて、異なる環境や分野の研究者と交わることの大切さを熱心に語ってくださった先生方もおられました。今回は東日本大震災の後でもあり、参加学生と話をしてみると影響を受けた人も少なからずいました。そのような状況でも時間を都合して参加してくださったことはありがたく思います。また、それぞれに工夫をこらし、学部生にも大変に興味をそそるように、ご講演の準備をされた先生方に、深く感謝を申し上げます。



E V E N T R E P O R T

教員報告 分子研オープンキャンパス2011

2011年度担当教員 物質分子科学研究領域 准教授 中村敏和

2011年5月28日(土)に分子研オープンキャンパスを分子科学研究所において開催した。オープンキャンパスの参加者構成は、鳥取から北海道まで、学部学生5名、修士過程20名、博士課程4名、教員・研究員4名、民間7名であり、あわせて合計40名(このほか分子研シンポのみの参加者が6名)で昨年度の8割程度となった。教員、民間の参加者が増加している一方で、学生の参加者数は激減している。東北、関東地域の参加人数が減少しており、震災の影響が大きかったと考えられる。当日は12:45より岡崎コンファレンスセンター中会議室で、大峯所長、

横山教授、青野教授、著者の順番で分子研、総研大、共同利用、およびオープンキャンパスの説明を行い、明大寺・山手の両地区を14:10から17:00まで実験室を自由に見学してもらった。天気には恵まれず雨模様であったが、台風襲来前日だったので交通の便には問題が無く幸いであった。アンケートの回収率は昨年よりやや低い57.5%である。参加情報の入手先は先生からの紹介52%、ポスター13%、今回はホームページが4%となっている。ポスターを見た人の多くは先生からの紹介と重複している。しかし、ポスターがあつたからこそ教員からの紹介があ

るわけなので、ポスターの重要性は依然として高いと思われる。実際、ポスターを見たことがある人は57%と昨年度同様に高い。以上の結果は、本事業が広報室の弛まない努力と大学におけるOB等の分子研に縁のある先生方に支えられた形で成立していることを表していると思われる。特に近畿地域の学生・教員参加者と東海地区の民間参加者が増加しており、感謝したい。最後に今回のオープンキャンパスの開催にあたりご協力頂いた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

総研大の知名度



オープンキャンパス情報入手先

